



救急車からドクターヘリへ（大戸ヘリポート）

らなくなる問題や東日本大震災の被災3県でも調査終了していなかった地域で測量などに時間が掛かり復興が遅れがちと言っています。市町村で調査状況に格差があるが、未実施の市町村は早急に実施する必要があると思います。

地域住民が平和に安心して生活するためにも、地籍調査は必要です。実施状況はどうか、課題、問題があるのか、その解消はできるのか、どのように取り組んでいるのか。また、今後の計画を伺います。

一山議員

その方で協議の課題として提案していきたい。

コミュニケーションボードは、外国人、身体障害者にも活用できるということです。現在メモ筆記で行っているということですが、状況だけ報告して、回答とします。

地籍調査への

取り組みは

古くから引き継がれてきている宅地や森林の境界や面積、所有者等に関する問題が起っています。県は地籍調査を防災事業と位置付け、津波浸水域や活断層帯、中央構造線周辺で実施主体となる市町村の支援に乗り出す一方で、実施には所有者が立ち会う必要などの手間がネックになっているのではと推測しています。

阪神大震災で境界が分か

寒業建設課長

地籍調査の課題は境界の確認作業の実施の困難、権利関係の複雑さ、所有者の高齢化等により、立会ができない状況が生まれてくること、立会できない時は、委任をして立会する方法や法務局の筆界特定制度も活用できます。現状を良く把握している方に円滑に進むよう、推進委員をお願いします。

ています。

市街地は、国主導により道路、河川に囲まれた大枠の範囲を測量して、図面を作成する作業に着手しています。

現在は、山側から市街地へとありますが、検討の可能性もあります。いずれにしても、土地所有者の皆様方の協力が必要ですので、よろしくお願いします。

町興しの拠点としての

機能強化を

藤元 雅文 議員

「このままでは牟岐町が寂れてしまう。何か有効な手を打たなければ」というのは、多くの町民のみならず、歴代町長、役場職員、議員共通の認識であり願ひであります。したがって、

物産館開設については、その必然性があったということであり、良い面は伸ばし、問題点は改善すれば良いのだと思います。

数字で表せない成果が出

始めています。再就職のためにパソコン教室に通った方もおいでますし、趣味で人生を豊かにされている方々もおいでです。また、出羽鳥アート展でも一定の役割を果たしましたし、物産館を拠点に、あんどん展の準備もされています。

伸び始めた芽を摘み取ることなく大事に育てることが、活性化を考えるうえで大切なことではないで